



台嵐  
10号



2"直撃  
受けた。



風が強く  
たおれ子

修繕



亡母が  
本園之下  
八重子が  
根元から  
抜けた。



かき池に  
土砂埋まる。

土砂掘り  
出す。



口-70"2"張り張り 植殖す。



6月に植えたもち米  
植えたの大部分がたけど  
スクスク育ち無事収穫2"とれた良かった!  
うれしい!!



←カーブミラーが付いた。  
(あさほろす(私有地)  
への入り口がわかりやす  
なりました。GOOD!



ユニホ"を使い何の  
工事中。

出口  
(付替道路へ)  
↑  
← 左側      → 右側



かん視小屋  
(見張り)



あさほろす前の  
地質調査  
終了



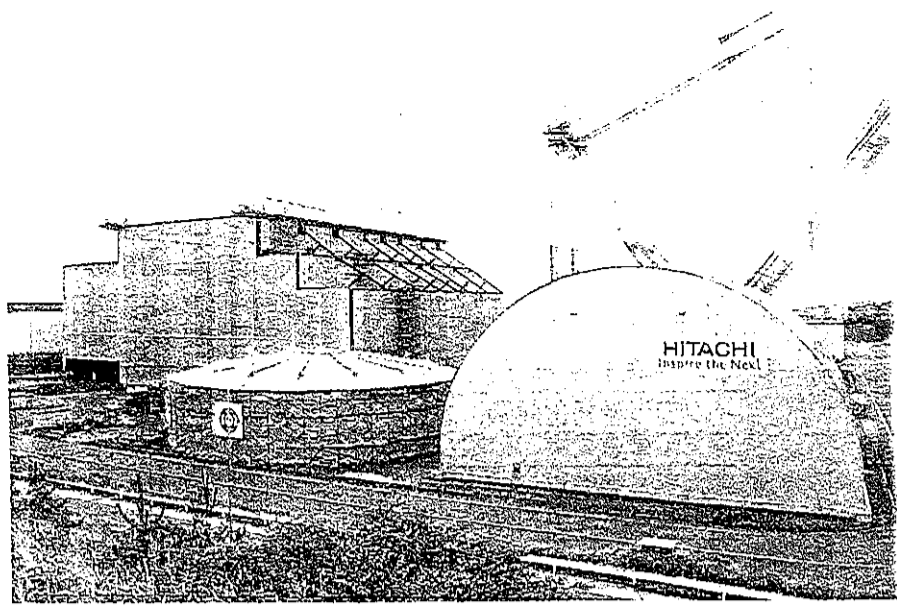
↑あさほろすから

### 大間原発審査合格 2年連続延期へ

# 地元冷静「仕方ない」

## 経済停滞に不安の声も

大間町に大間原発を建設中の電源開発（Jパワー）が、11月を予定していた審査合格と安全強化対策工事の開始時期を2年程度延期する方向で検討していることについて、首長ら地元関係者は7日、2年連続となる延期を「国が進める審査なので仕方がない」「予想していたこと」と冷静に受け止める一方、地域振興への影響や、経済停滞が続くことへの懸念を示した。



電源開発が安全対策工事着工などの延期を検討している大間原発の工事現場＝7月、大間町

（加藤彩美、近藤弘樹）

Jパワーは昨年9月にも、審査合格時期を1年延ばした経緯がある。その後も原子力規制委員会の審査はあまり進んでおらず、地元では11月までの審査終了は厳しいだろうとの見方が強まっていた。このため、今回の延期検討について、地元周辺3町村の首長から事業者に対する強い批判や不満の声は上がっている。

風間浦村の飯田浩一村長は「国が進める審査なので延期は仕方ないと思う」との見方を示し、「ただ、1年延期、また延期と繰り返されると、地元業者が振り

回される。守れる時期をせないのなら、むしろ示せないとはっきり言ってもらった方がいい」と話した。佐井村の樋口秀視村長は「安全対策上仕方ないのかもしれないが、工事が先送りになれば稼働も先送りされる。下北の振興にも影響

が出る。早めに運転開始できよう努力してほしい」と語った。地元・大間町の金澤満春町長は、正式な発表がまだ行われていないことを理由に「コメントのしようがない」とした。大間町議会大間原発対策特別委員会の正根秋雄委員長は「ある程度予想はしていたが、詳細が分からない」と言葉少なだった。

一方、大間原発に反対する会の佐藤亮一代表(80)は「今回の計画延期は会社側に明確な見通しがあつてのことではなく、取りあえず延ばしただけの話だろう。大間原発は、世界で例がないFULMOXの商業炉として造ること自体が間違っている。大間原発計画は止めるべきだ」と強調した。

# 大間原発 審査合格さらに2年

## 電発検討 操業もずれ込み

電源開発（Jパワー）が大間町に建設中の大間原発について、11月を予定していた原子力規制委員会の審査合格と、安全強化対策工事の着工を2年程度延期する方向で検討していることが6日、関係者への取材で

分かった。安全工事着工の前提となる審査が難航しているためで、これまで「2022年度ごろ」としていた運転開始時期もずれ込む見通し。9日に県と大間町、風間浦村、佐井村に報告す

Jパワーは大間原発の運転開始に向けた審査を14年12月に申請。当初、審査期間を15年11月までの1年間と見込み、新基準に対応するための安全工事を経て21年度ごろの運転開始を予定していた。しかし、審査が

想定通りに進まず、15年9月に審査合格時期を1年延期して今年11月とし、運転開始時期を22年度ごろに先送りした経緯がある。関係者によると、Jパワーは審査合格にさらに2年程度かかると見込んだもよ

大間原発の審査はこれまで9回開催した。ただ、地震関係に限られ、施設関係の審査は進んでいない。渡部肇史社長は11月の審査合格について、6月の取材に「現実的に難しいところがある」との認識を示していた。

運転開始時期について、Jパワーは審査申請時の取材に「（安全工事終了後）さらに1年程度の試運転を考慮する必要がある」との見解を示していた。従来の22年度ごろから、2年程度は延期される可能性がある。

うだ。工期を5年程度とする安全工事の着工も先送りする方針。

（本紙取材班）